商業登記公告

株式會社鮮產蔬行（變更）大正拾參年五月拾四日取締役ヲ選任シ同日就任ス　同日取締役ヲ選任シ同日就任ス　同日取締役ヲ選任シ同日就任ス　同

二の閣僚が反對しても 首相は辭職を即行せん

正式に閣議に持ち越した以上は 後日に持ち越す不手際は行るまい

【東京電報】清浦内閣最後の日たる六日は愈々今日となつたが午前十時閣議に清浦首相は出ても直に辭職を表明するに過ぎざるべく、閣議は一二閣僚の不同意があつたとて之を後日に持越す事は出來ぬ筈で、閣内無統一の責任を一新する建前上なるべく速やかに辭職するものと見られてゐる

總辭職は八日か

挂冠は今が潮時と

【東京電報】首相は最近病氣勝にて、今日閣議を終了するや直に辭表を提出し、今日閣議は持越すとなし、閣議は今日中に辭表を提出するとなし、閣議は今日中に辭表を提出するとなし、閣議は今日中に辭表を提出する

御成婚記念—大運動場に訓練院は不適當だ (一)

輕卒に決定して悔ゐを千歲に貽すな

京城府營市計畫 公園部長 齋藤音作氏語る

聖婚の目出度御成婚を記念する意味に理想的大グラウンドを建設すると云ふことは双手を挙げて賛成する處である。稍々時期遅れの感は近来世界的になつて来た。時代大戰の間かれた極東オリンピック大會では遺憾ながら我帝が其勝選にたられ、天皇陛下は御落胆を賜はつた。特に皇太子殿下及同妃殿下の御聽に御趣味を有たれ御熱心で在らせらるゝことは今更申し上げる迄もない。此際聖婚に於て理想的大グラウンドの建設を為すことは既に時宜に適した美擧である

然し理想的大グラウンドの建設に就ては慎重なる考慮を要すると思ふ。理想的大グラウンドは一時的のものでない。其位置は容易に變かし得るものでない。特に御成婚を記念する事業としては永久的のものたらしめたい。千代に八千代に永續し得る不變なものにしたい。然るに訓練院の現指定地は大運動場の大グラウンドとして要し云ふ性を有するものであらうか失れほどに理想的な地域と言ひ得るゝ有らうか余は疑問なき能はざるものである。

訓練院予定地は多くの缺點がある

(一)既に市街地に近い。其附近は密集に市街地化ずに相違ない。市街地化する地域の大グラウンドとして不適當なることは最も明瞭である。(二)此附近は風致を以て知られて居る處である。特に此方面の土地は漢江の地土を掘上げたもので其中には腐敗せる有機物を多量に含むを以て其構造には有害細菌の多いと云ふ缺點がある。(三)四時共に風の吹通しが強い

風は總ての競技に大の禁物である

殊に漢江風を忌むことがひどくなる。然るに訓練院附近は風の強いことに於ては京城府

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

おひる過ぎ (太平通で)

り、高價の地は之を避けねばならぬことになる。現候補地は此點から考へて永久性を缺くものと思はねばならぬ。然らばより優つた候補地が他に在るかと問題になるが、余輩は先刻より平壤門外に於て之を出してゐる。平壤門外には南より北に流る小流があり

之れを遡れば甲乙二つの好適地がある

甲は統營郡西地人蘆地の東方高地にして、乙は更に奥に進んだ所で、高燥にして、三四萬坪のグラウンドを造るべく。乙にしても二萬坪内外の敷地を得るに難くあるまい。甲は現在から考へて最適地である。(未完)

スミス機 無事上海着

鹿兒島を發したスミス中尉の二號機は五日午後零時二十分鎮海に着した。(上海電報)

毎月十日を交通宣傳デー

六月から九月迄四ヶ月間 全市一齊に徹底的取締

警察部では四日午後定例部長會議を開き撤底した交通取締を行ふ。

毎月十日の交通宣傳デーは民衆に即時を求める意味で勿論取締だけでなく、其の効果を強調する爲めに東京で既に實行して居る例に倣ひ時間に實行入りの宣傳カードを配布して宣傳ポスターを市内各寄りの場所に掲示する交通取締狀況を視察する爲め警部補本町署の福島巡査部長鍵路の岩尾巡査部長三人が種々交通取締の土産を持參して四日夜歸城した

毎月十日の交通宣傳デーは民衆に即時を求める意味で勿論取締だけでなく、其の効果を強調する爲めに東京で既に實行して居る例に倣ひ時間に實行入りの宣傳カードを配布して宣傳ポスターを市内各寄りの場所に掲示する交通取締狀況を視察する爲め警部補本町署の福島巡査部長鍵路の岩尾巡査部長三人が種々交通取締の土産を持參して四日夜歸城した

有志者は今五日午前部長室で其の報告會を開き善後策を講ずる事になつた

時宜に適した美擧である

然し理想的大グラウンドの建設に就ては慎重なる考慮を要すると思ふ。理想的大グラウンドは一時的のものでない。其位置は容易に變かし得るものでない。特に御成婚を記念する事業としては永久的のものたらしめたい。千代に八千代に永續し得る不變なものにしたい。然るに訓練院の現指定地は大運動場の大グラウンドとして要し云ふ性を有するものであらうか失れほどに理想的な地域と言ひ得るゝ有らうか余は疑問なき能はざるものである。

訓練院予定地は多くの缺點がある

(一)既に市街地に近い。其附近は密集に市街地化ずに相違ない。市街地化する地域の大グラウンドとして不適當なることは最も明瞭である。(二)此附近は風致を以て知られて居る處である。特に此方面の土地は漢江の地土を掘上げたもので其中には腐敗せる有機物を多量に含むを以て其構造には有害細菌の多いと云ふ缺點がある。(三)四時共に風の吹通しが強い

風は總ての競技に大の禁物である

殊に漢江風を忌むことがひどくなる。然るに訓練院附近は風の強いことに於ては京城府

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

理想的運動場は其周圍山丘を有することが必要である。然るに現指定地は南方に地土を共同墓地を有するのみで、他の大部分は廣漠たる平地である。故に理想に遠い地域と謂はねばならぬ(六)周圍に樹木を有せぬ。理想的大グラウンドには防風のために、風致のために、緑樹の植栽のために、緑樹なる日光の反射を和らげるために、成るべく其周圍に廣漠たる樹林を有することが必要として居る。

然るに豫定地は四方開け放しで

殆ど周圍の樹林を有せぬ。將來に於ても其周圍に廣漠たる樹林の植栽を要することは不可能と思はれる。

之れ樹林は直接間接に優まれる位置がある。即ち其他の樹林は今日の程度でさへ樹々の運動場其外人家の他に危害を及ぼすこと數くない。然るに故に樹は日進月歩である。危險の程度は年一年に增大するに從つて居る。故に市街地化の進むに從ひ危害の問題から遠に移轉論の起るのは必然と思はれる。

現在でも地價が

餘りに高過ぎる

理想的大運動場はグラウンド敷地だけでなく、其の周圍に廣大なる樹林の存在を必要とする。從つて其の周圍は廣大なるを要するに

(五)

(四)

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

奉祝デー大混雜

重傷者三名を出す

五日朝鮮先帝附近に在つて開城下の其親歸婦人三名は繼續せんとする際は電に撃ち負ひ鮮線の救護所に運ぎ込まれ

年前十一時開城下の聖駕と共に

聖駕は雪解を打つた其親歸婦人三名は繼續の下敷きとなつて重傷を負ひ鮮線の救護所に運ぎ込まれた。(東京電報)

鮮展の所感

……(その四)……

東洋畫部(國)

李遂福氏作『鶴』兎に角作者の手に入つたもので、すつきりと聽鶴の持つやうな味が出てゐる。金泥の使ひ方は巧みである。(二)此附近は風致を以て知られて居る處である。特に此方面の土地は漢江の地土を掘上げたもので其中には腐敗せる有機物を多量に含むを以て其構造には有害細菌の多いと云ふ缺點がある。(三)四時共に風の吹通しが強い

風は總ての競技に大の禁物である

殊に漢江風を忌むことがひどくなる。然るに訓練院附近は風の強いことに於ては京城府

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

(二)

(一)

(第三種郵便物認可)

(第五千九百三十五號)

(三)

◇

三戸萬象氏の『鶴水』流石に大作であると感ぜしめる、獨創力には缺けてゐるが何と無く味を持つてゐる。恰も鶴水と云ふ朝鮮特殊の味に作者が興味を持つたやうな味を此の繪を見る人は感ずるであらうと思ふ。作者は何時も一貫して

成に仕上げる點を持つてゐるので大體の味は掴むが、鑑賞を誤めてゐると次第に細部の缺點が眼を紛いて來る。此の廟では周圍をぼかして中部にピントを合したと云ふ機式がとられてゐるが、今一段遠近法に強を用ひて近景からぐつと觀者の視線を引いて中部に寄らしめたならば一層表現力に力を增すであらうと思ふ。此のボカシは折角の大作の味を稀薄にしてゐる。人物では右端の人物が手が怪しかつたり顔に眼と云ふ眼鏡が缺げてゐるそれに當物は相等脚りみが出てゐれば嬉しい感じも出ていて

◇

此處で書いてみたいことは群像と云ふ事である。私が思ふのに群像ゐる點合に色彩感に缺けてゐる。

金殿鎬氏作『復活後』ではデッサンに目立たぬ傷が無く善く行つてゐる。

◇

李相福氏作『鶴物』はそのモデル

◇

田中外也氏作『春光禁意』は最も鮮の稍いた感である。技巧にも鶴鶴にも何のソツも無い。能に巧なものである。然し何の一撃の色彩

◇

三浦力武氏作『復活後』は最も鮮の稍いた感である。技巧にも鶴鶴にも何のソツも無い。能に巧なものである。然し何の一撃の色彩

◇

災後の戀

四十九回

上司小剣 挿畫 伊東深水筆

海濱の村千三

母親が迎船の漁夫をして、光多は姉の心をば不思議だと考へずにはゐられなかつた。

玉さんと花枝が行つてしまつてもう電車に乘つたと思ふ頃、鶴子はまた光多の眼へ嫌に嬌羞を帶びてやつて來た。

『わたし、こないだ、あなたに言つたこと、あれ取り消すわ』

さう言つた鶴子の顏をつくづく見て、光多は白ばくれつゝ『取りも消す？ッて、何を取り消すんですか。僕には解らない』と、怪訝なだけでつゞけられるものかと、光多は姉の心を